

言葉を失う惨状

国の無策ぶり露呈

津波で大きな被害が出た石巻市の日和山公園。一望すると、海岸に近い地域の大半は更地と化し、がれきの山が何方所も。テレビで見慣れた光景だが、目の当たりにして言葉が失う。

テレビ中継車が数台、「大震災6カ月」のナマ中継をしていた。NHKの若い記者が「地元の方ですか」とメモ帳片手に問いかけてきた。「この目に被災地の姿を焼き付けておこうと東京から友人たちと来た」と答える。



廃墟と化した小学校校舎



うず高く積まれた被災車両

津波で大きな被害が出た石巻市の日和山公園。一望すると、海岸に近い地域の大半は更地と化し、がれきの山が何方所も。テレビで見慣れた光景だが、目の当たりにして言葉が失う。テレビ中継車が数台、「大震災6カ月」のナマ中継をしていた。NHKの若い記者が「地元の方ですか」とメモ帳片手に問いかけてきた。「この目に被災地の姿を焼き付けておこうと東京から友人たちと来た」と答える。

窓ガラスはことごとく壊れ、廃墟の小学校の校舎や横倒しになったままのビルも散見される。半年たっても放置されつ放しの被災地の惨状は、国の無策ぶりを露呈、腹立たしい思いだつた。秘湯めぐりとソバ食べ歩

きから一転、被災地のナマの姿を、と企画された今回の「みちのく5百キロ走破」。どうやら今年も紅一点に頼りつ放しのように。途中で「運転できる男3人が一時間ずつでも代わつたら」と提案したが、「運転していた方が(久貝さんは)疲れないよね」と、誰かの勝手な言い訳でおじゃん。

わが会の旅には珍事は付きもの。主役はやはり、この人・原征。2泊目の会津若松、宴会に出掛ける直前に汗びっしょりでホテルへ。「いやー、駅近くまで

悲しきサイレン

被災者の哀切の叫び

大震災からちょうど半年を告げるサイレンが鳴り響いたのは、石巻から女川へ向かう途中だった。人も家も車も、何もかも情け容赦なく津波にさらわれた。かつて、そこに住宅があったことを示すのは、申し訳程度に残るコンクリートの土台だけだ。

荒涼とした灰色一色の風景の中に通学用ヘルメットが置かれていた。その鮮やかな黄色は、まぶしくさえ感じる。脇には花が供えられ、線香の煙が一筋上る。朝、いつもどおり「行って

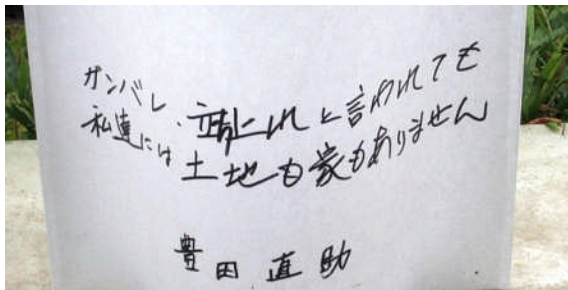
1時間近く歩いちゃったよ。くたびれたから先に行つて、あとから行くから...」。

息子君の友人で会社は分かったものご本人は不在だったとか。事前にひと言そう言えばホテルに来る前に車で一緒に探したのに。

1泊目の仙台の宴会では、「ザーつと腹こわしていてさ」と原征。「そりゃー、ガンに間違いない」と荻莖。実際いつもに似ず、あまり飲まず、食わず、夜食のミニラーメンも食べ残した。翌朝のバイキングは

きます」と言つて出かけたまま、二度と帰らなかつた子ども。午後2時46分に鳴り響いたサイレンは、こうした子どもたちの助けを求めるといふ叫びにも聞こえた。

石巻・日和山公園で、石巻市の被災者(80歳代)の言葉を目にした。「ガンバレ、立ち上がれと言われても、私たちには土地も家もありません」



灯籠に書かれた被災者の思い (日和山公園)

ことがないがしろにされていらないか。全国からは「ガンバつて」「負けないで」とエールが寄せられる。だ

お代わり山盛りでパクパク。心配をよそに「大丈夫、下痢は治ったから...」とケロリ。まあ、それは良かったけど、「原征、それはガン、腸ガンだ」と決め付けたニセ医者是谁だ!

(八幡 裕隆)

「楽あれば苦あり」
運転士のボカに泣く

予定より早い列車で帰れた最終日、京浜東北線が人身事故で遅れていたため東海道線で横浜へ。横浜線も

信号トラブルで遅延、東神奈川のホームは人であふれている。その原因は、なんと間抜け運転士だった。もちろん駅では何の説明もなし。翌日の朝刊(地域版)の記事で顛末(てんまつ)を知り、あきれた。

車掌も客も乗っていないのに運転手が気付かずに発車させた。次の駅で車掌不在を知って停車、車掌はタクシーで電車を追いかけてつと乗り込んだという。

このため上下線で大幅に遅れて1万1千人に影響が出た。このうちの一人がこのワタシ。散々ホームで待たされた挙句、超満員の車内で重い荷物2つが客に挟まれ大苦戦、右ひじを捻挫? 楽しい旅の後の「楽あれば苦あり」か。須坂からの「今、帰宅」より大幅に遅れてわが家へ。何か悪いことをしましたか。

(八幡 裕隆)

が、心が折れないようにがんばり、負けずにいるのに、これ以上何をがんばればいいのか?。

大地震・大津波さえなければ、この地でもいつまでもおりの日々が続いていたであろう。家族を、日常を失った人々の哀切を、サイレンは物悲しく響かせた。

(久貝 真澄)